

畑崎賞に5人と1団体

■地域密着の社会活動を顕彰

然記念物「丸山湿原群」の保全に取り組む「丸山湿原群保全の会」(同市)を選んだ。

大手アパレルメーカー「ワールド」(神戸市中央区)創業者の畑崎廣敏さんが設立した畑崎財団は20日、「第4回畑崎記念フアッシュヨナブルエーシング賞」に、5人と1団体を選んだ、と発表した。

人を選出。南あわじ市の山田俊輔さん(74)は、卓球の子ども教室や指導者講習を開くなど競技の普及、発展に貢献。篠山市の山本清さん(71)は脳出血で左半身まひになってから障害者スポーツ指導員の資格を取り、健常者とのスポーツ交流を進めた。

知的活動分野では、かつて三木の特産品だった染め型紙を収集し、展示などで魅力を発信する筒井俊雄さん(87)と三木市

と、宝塚市の兵庫県天

社会奉仕活動分野は2人。神戸市長田区の阪神・淡路大震災の追悼行事「1・17 K O B E に灯り」を in ながた」実行委員長を務める和田幹司さん(73)と、同区と、佐用町で「播州平福しゃくなげの里」を造り、03年に米ワシントン州に日本のシャクナゲを寄贈した矢代守さん(82)と、同町が受賞する。

28日に神戸市中央区の神戸国際会館で表彰式がある。(斉藤正志)

同賞は、年齢を重ねても健康で充実した生き方を実現し、地域密着の社会活動をする人たちをたたえるため、2013年に創設。27件の推薦があった。

健康づくり分野では2